

Keiko Kikumoto 菊本恵子

クロアチア中等教育における日本語学習の現状と展望 —アンケート調査に基づいて—

Prethodno priopćenje

Preliminary communication

UDK 811.521:373.5>(497.5)

<https://doi.org/10.32728/tab.16.2019.10>

要旨

国際交流基金の報告によると、現在クロアチアの中等教育機関では日本語教育は行われていないということがわかった。なぜクロアチアの中等教育機関において、日本語教育は行われていないのか。クロアチアの中等教育機関で日本語教育を行うには、どのような指導が適切か。実際に、地元の高校生にアンケート調査を行った。すると、アンケートに答えた学生のほとんどが、日本文化や日本語に対し接触経験を持つと答え、半数以上の生徒が高校で日本語を勉強したいと回答していた。また、ニーズ調査では、多くの学生が、趣味上の理由で日本語を習い始めたかったという点から、クロアチアの中等教育機関で日本語教育を開始する場合、文法積み上げ式の教科書ではなく、Can-do式の教科書を使って学習を行った方がいいと考える。

キーワード: 日本語, 中等教育, クロアチア, アンケート調査

1. 研究背景と目的

1.1 クロアチアにおける日本語教育の現状

国際交流基金が2017年に発表した、2015年度時点のクロアチアにおける日本語学習者の数は、初等教育12名、高等教育126名、その他教育機関37名、合計で175名である。(国際交流基金, 2017) 旧ユーゴスラヴィア時代の日本研究・日本語教育が当時の首都であったベオグラードを中心に進められていたため、建国後、日が浅いクロアチアでは日本研究・日本語教育の歴史も同じく浅い。しかしながら、1996年頃から首都ザグレブにおいて初等・中等教育機関において日本語教育が開始され、2004年からザグレブ大学哲学部に日本研究コースが開講。また、2015年にプーラ大学がクロアチアでは初めて学位の認定される日本学科を開講し、日本語学習者はこれからますます増えていくと考えられる。

1.2 本調査の目的

国際交流基金が発表した、クロアチアの日本語学習者数の内訳に注目してみると、クロアチアの中等教育機関においては現在学習者がいないということがわかった。しかし、隣国であるセルビアで国際交流基金が同様の調査を同時期に行った際、セルビアの中等教育における学習者数は120名という結果だった。また、同様の調査によると、ボスニアの中等教育機関で日本語を学習している人数は13名であった。(国際交流基金, 2017) 隣国で実施されている一方で、なぜクロアチアの中等教育機関では日本語学習が行われていないのか、クロアチアの中等教育機関で日本語教育を始める場合に最適な方法はあるのか、実際に中等教育機関で教育を受けている学生を対象にアンケート調査を行ない、考察することにした。

1.3 仮説

現在、クロアチアの中等教育機関で日本語学習は行われていないという点から、日本語や日本文化に触れたことがある学生は少ないのではないかと考える。したがって、日本語を勉強してみたいと思っている学生も少ないという仮説を立てるに至った。また、観光産業が盛んなクロアチアにおいて、外国語である日本語を使ってツアーガイドをしたいと考えている学生は多いのではないかと考えた。

2. アンケート調査の詳細

2.1 調査方法

2017年度、国際交流基金の支援を受け、プーラ大学では日本語普及と学生募集のため、クロアチア各地の高校を7校訪問し、出張講義を行った。そこで講義を受けた高校1年生から4年生までの178名を対象にアンケート調査を行った。詳細は表1の通りである。

表1 アンケート概要

高校名	調査対象者数	調査日
II. gimnazija Osijek	12名	2018年1月30日
Gimnazija „Fran Galović“ Koprivnica	21名	2018年2月6日
Strukovna škola Virovitica	15名	2018年2月7日
III. gimnazija Zagreb	45名	2018年2月19日
Prva gimnazija Varaždin	35名	2018年2月20日
V. gimnazija Zagreb	16名	2018年2月20日
Gimnazija Pula	34名	2018年2月27日

調査対象者総計：178名

2.2 質問項目

アンケートでは、同日に行った講義に関する感想なども記入をお願いしているが、今回の調査には直接関係ないと考えるため、省略する。

表2 質問内容

1 「過去に日本文化や日本語に触れたことがありますか」	
選択項目	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のアニメや漫画を見たことがある ・日本語を勉強したことがある ・日本のゲームをしたことがある ・その他
2 「もし高校生から日本語が勉強できたらあなたはどう思いますか」	
選択項目	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたい ・やりたくない ・何とも思わない
その理由	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しそう ・難しそう ・将来役に立ちそう ・興味が無い ・その他
3 「もし日本語が話せたら何がしたいですか」	
選択項目	<ul style="list-style-type: none"> ・日本へ行く ・日本人と話す ・日本の歴史を勉強する ・アニメを見る ・通訳の仕事をする ・日本語でツアーガイドをする ・翻訳の仕事をする ・その他

3. アンケートの結果と考察

3.1 文化接触・言語接触について

まず、「過去に日本文化や日本語に触れたことがありますか」という質問項目（複数回答可）に対する回答は下の図1の通りである。178名のうち、114名は「日本のアニメや漫画を見たことがある」と回答した。次いで72名の学生が「日本のゲームをしたことがある」と答え、「日本語を勉強したことがある」と回答した学生は178名のうち12名という結果だった。その他の回答としては、「何も触れたことがない」や「日本に行ったことがある」、「日本の映画や音楽を見たり聞いたりしたことがある」などがあつた。また、「日本語を勉強したことがある」の選択者には、横に期間を記入してもらおうようお願いした。選択した12名の中で、1年間日本語を勉強したという回答が2名、4カ月間勉強したという回答が1名あつた。

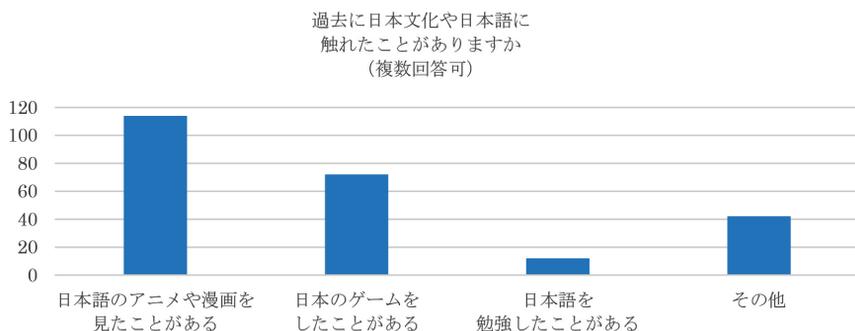


図1 「過去に日本文化や日本語に触れたことがありますか」回答

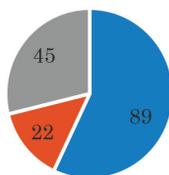
この結果から、日本のポップカルチャーである、アニメや漫画、ゲームがいかに大きい影響力を持っているかが改めてわかった。また、178名中87%にあたる154名が何らかの形で日本語や日本文化に触れたことがあるということがわかった。

3.2 日本語学習について

次に中等教育機関での日本語学習に関して「もし高校生から日本語が勉強できたらあなたはどのように思いますか」という質問項目を作成した。回答結果は図2の通り回答者156名のうち約57%にあたる89名が「日本語をやりたい」と回答し、約14%にあたる22名が「日本語をやりたいくない」と回答。約29%にあたる45名は「なんとも思わない」と回答した。

また、この項目に回答してもらったうえで、図3の「それはどうしてですか」(複数回答可)という質問項目にも回答をお願いした。その回答としては「楽しそう」というものが圧倒的に多く、88名が回答した。次いで「難しそう」という回答が33名、「将来役に立ちそう」と答えたのは31名、「興味がない」と答えたのが14名という結果になった。その他の回答は「日本語が好きだから」「日本に住みたいから」など肯定的なものから「これからの人生で使わないと思うから」「日本語の勉強に割く時間がない」など否定的なものまで7名が答えていた。

もし高校生から日本語が勉強できたら
あなたはどのように思いますか



■ やりたい ■ やりたくない ■ なんとも思わない

図2 「もし高校生から日本語が勉強できたらあなたはどのように思いますか」回答

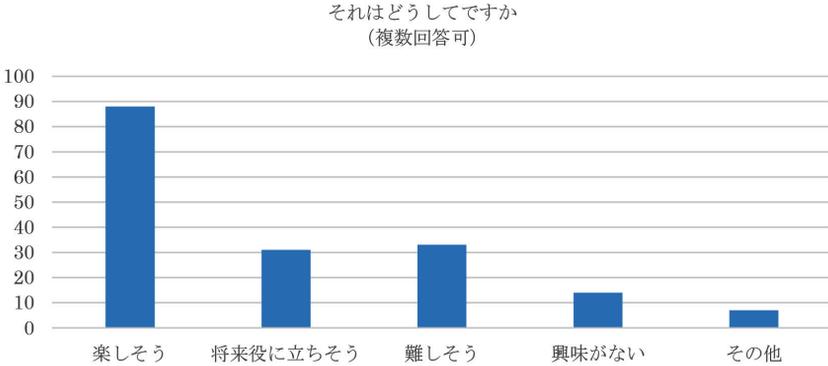


図3 「それはどうしてですか」回答

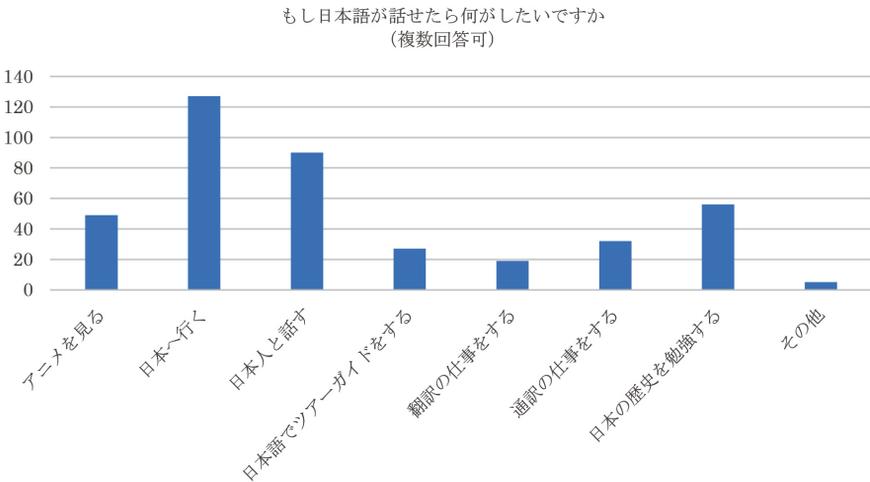


図4 「もし日本語が話せたら何がしたいですか」回答

3.3 学習ニーズについて

最後は「もし日本語が話せたら何がしたいですか」というニーズに関わる質問項目の回答結果についてである。一番に多かったのは「日本へ行く」というもので、127名が回答した。2番目は90名が回答した「日本人と話す」、次いで「日本の歴史を勉強する」56名、「アニメを見る」49名、「通訳の仕事をする」32名、「日本語でツアーガイドをする」27名、「翻訳の仕事をする」19名と続く。その他回答の中には「日本語の教師になる」「日本の音楽について勉強する」「日本の映画を理解する」など5名の回答があった。

3.4 考察

本アンケート調査では2つの仮説を立てたが、そのどちらの仮説とも異なる結果が表れた。

まず予想と反した結果となったのは、日本語や日本文化に触れたことがある学生は少ないのではないかということだ。中等教育において日本語教育が行われていないといった事実からこの仮説を立てるに至ったが、本調査では対象者全体の87%が何らかの形で日本語や日本文化に触れたことがあるという結果となった。また半分以上の学生が、日本語を学習してみたいと答えた。ただ、日本語や日本文化に触れたことがあると回答した学生の割合に比べ、日本語を学習してみたいと回答した学生の割合が少ないのは、日本語が難しそうだと思っている学生が多いからだということもわかった。

2つ目の仮説は、クロアチアが観光立国を標榜していることから、ツアーガイドを志している学生が多くいるのではないかというものだった。しかし、その仮説とも異なる結果となった。ツアーガイドは7つの項目のうち6つめに回答者が多い項目であり、とても多くの学生が希望しているとは言えない結果となった。

4. まとめ

日本語や日本文化に1度は触れたことがある人が多いことや、日本語を学習してみたいという学生の数から、日本語や日本文化に興味があるという学生は多いということがわかった。また、日本語教育の実施状況や国の状況など、事実から推測できることが必ずしも正解とは言えないことがわかった。

西欧の文化とは全く違う独自の文化や、ポップカルチャーなどは日本そのものを知ってもらう鍵であり、日本語教育の強みだといえる。しかし、その難しさから敬遠されることは逆に弱みである。

今回の調査で、日本語を学習してみたいと思っている学生が多数いるということから、十分にクロアチアの中等教育機関で日本語を学習することは価値があることだといえる。

また、仕事をするために日本語を勉強するという回答よりも「日本へ行く」や「日本人と話す」など、趣味のような目的で勉強したいという学生が多いため、中等教育機関で日本語教育を始める際には、文法積み上げ式の教科書ではなく、Can-do式の教科書を使って学習を行った方がいいと考える。実際に、本学科で準備されている教科書があるため、十分にこれから活かすことができるだろう。(Marković他 2018a,b)

2015年にプーラ大学が学位認定される日本学科を開講し、今日クロアチアの高等教育機関における日本語教育はこれからますます発展している。それに伴って、中等教育機関における日本語教育も少しずつ前進していこう。

5. 参考文献

柴 宜弘、石田信一 (2013)

『クロアチアを知るための60章』明石書店

国際交流基金 (2017)

「日本語教育 国・地域別状況 クロアチア」

<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/croatia.html> (2018. 3.28閲覧)

MARKOVIĆ et al. 2018a

Ljiljana Marković – Divna Tričković – Irena Srdanović, „*Udžbenik japanskog jezika Ippo ippo: glavna knjiga*”, Juraj Dobrila University of Pula, Pula 2018.

MARKOVIĆ et al. 2018b

Ljiljana Marković – Divna Tričković – Irena Srdanović, „*Udžbenik japanskoga jezika Ippo ippo: Uvod u pismo kana*”, Juraj Dobrila University of Pula, Pula 2018.

SUMMARY

The current situation and prospects for Japanese language education in secondary schools in Croatia: Based on a questionnaire survey

Currently, according to a report from the Japan Foundation, Japanese language education is not being conducted in secondary education in Croatia, while in some neighbouring countries Japanese language learning is much more widespread in secondary schools. This paper describes a questionnaire survey conducted on local high school students in relation to their needs, interests, motivation and attitudes towards the Japanese language and culture, and discusses the results of the questionnaire as well as possible approaches in the introduction of Japanese language education in Croatian secondary schools in the future. The questionnaire was conducted within the scope of the project “Visiting secondary schools in Croatia” that was launched by Department of Asian Studies at the Faculty of Humanities Juraj Dobrila University of Pula and supported by the Japan foundation in 2018. Most of the students have said that they had experiences with Japanese language and culture, mostly having come into contact with Japanese anime, manga and games, and more than half of the students have indicated they would like to study Japanese in their high schools. Also, the survey of needs indicates that a textbook with a can-do approach should be used when starting Japanese language education at secondary school institutions in Croatia instead of a textbook using the grammar build-up approach. This is due to the fact that many students want to start learning Japanese as a hobby due to an interest in visiting Japan and communicating with Japanese people, and not to use it particularly for their future profession.

Keywords: Japanese language, secondary education, Croatia, Questionnaire survey

SAŽETAK

Trenutna situacija i izgledi za podučavanje japanskoga jezika u srednjim školama u Hrvatskoj: rezultati ankete

Trenutno, prema izvješću Japanske fondacije, obrazovanje japanskoga jezika se ne provodi u srednjoškolskom obrazovanju u Hrvatskoj, dok je podučavanje japanskoga jezika široko rasprostranjeno u srednjim školama nekih drugih susjednih država. U ovome radu opisujemo anketu provedenu među učenicima srednjih škola u Hrvatskoj s ciljem upoznavanja potreba, interesa, motivacije, stavova učenika u vezi s japanskim jezikom i kulturom te diskutiramo o rezultatima ankete i mogućim pristupima učenju i podučavanju japanskoga jezika u srednjim školama u Hrvatskoj u budućnosti. Anketa je provedena s lokalnim srednjoškolcima u okviru projekta „Posjete srednjim školama u Hrvatskoj“ koji je osmišljen na Odsjeku za azijske studije Filozofskog fakulteta Sveučilišta Jurja Dobrile u Puli i podržan od strane Japanske fondacije. Većina je učenika rekla da imaju iskustva s japanskim jezikom i kulturom, ponajprije u doticaju s japanskim animiranim crtanim, filmovima, japanskim stripovima i igricama, a više od polovice učenika izjavilo je da bi htjeli učiti japanski u srednjoj školi. Također, rezultati istraživanja potreba učenika ukazuju na to da bi se za podučavanje japanskoga jezika u srednjoškolskim institucijama u Hrvatskoj trebalo koristiti udžbenikom koji sadrži „mogu da“ formulacije (*can-do statements*) a ne udžbenik zasnovan na gramatici, s obzirom na to da mnogi učenici žele učiti japanski jezik iz hobija, npr. jer žele posjetiti Japan i pričati s Japancima, a ne nužno za potrebe budućega zanimanja.

Ključne riječi: japanski jezik, srednjoškolsko obrazovanje, Hrvatska, anketa

参考資料

アンケート用紙

Upitnik

Molim Vas ispunite upitnik. Hvala na suradnji! よろしければ下記アンケートにご協力ください。

■ O Vama

Naziv škole	
Razred	<input type="checkbox"/> 1. razred <input type="checkbox"/> 2. razred <input type="checkbox"/> 3. razred <input type="checkbox"/> 4. razred

■ O promociji

Sveukupni dojam promocije	<input type="checkbox"/> Jako zanimljivo <input type="checkbox"/> Zanimljivo <input type="checkbox"/> Osrednje <input type="checkbox"/> Ne zanimljivo <input type="checkbox"/> Potpuno ne zanimljivo
Koji dio promocije Vam je bio najzanimljiviji ※ Moguće je odabrati više odgovora	<input type="checkbox"/> O studiju <input type="checkbox"/> O Japanu <input type="checkbox"/> Kviz <input type="checkbox"/> Pozdrav na japanskom <input type="checkbox"/> Origami (savijanje papira) <input type="checkbox"/> Ostalo ()
Zanima li Vas još nešto o Japanu i japanskoj kulturi?	<input type="checkbox"/> Zanima me → Što vas zanima () <input type="checkbox"/> Ne zanima me
Jeste li do sada bili u doticaju s japanskom kulturom i jezikom?	<input type="checkbox"/> Gledao/la sam anime ili čitao/la mange <input type="checkbox"/> Igrao/la sam japanske igrice <input type="checkbox"/> Učio/la sam japanski jezik → Koliko ste učili? () <input type="checkbox"/> Ostalo ()

Koji fakultet planirate upisati?	<input type="checkbox"/> Fakultet () <input type="checkbox"/> Odsjek () <input type="checkbox"/> Usmjerenje ()
Zbog čega želite upisati gore navedeni fakultet?	<input type="checkbox"/> Volim učiti o tome <input type="checkbox"/> Čini se zabavnim <input type="checkbox"/> Bit će korisno u budućnosti <input type="checkbox"/> Jer je lako. <input type="checkbox"/> Braća/sestre ili prijatelji su upisali isti fakultet <input type="checkbox"/> Roditelji mi preporučuju
Biste li voljeli učiti japanski od srednje škole?	<input type="checkbox"/> Da <input type="checkbox"/> Ne <input type="checkbox"/> Svejedno
Biste li i zašto voljeli učiti japanski od srednje škole?	<input type="checkbox"/> Čini se zanimljivo <input type="checkbox"/> Čini se korisno <input type="checkbox"/> Čini se teško <input type="checkbox"/> Ne zanima me <input type="checkbox"/> Ostalo ()
Što bi ste voljeli raditi sa znanjem japanskog jezika? ※ Moguće je odabrati više odgovora	<input type="checkbox"/> Gledati anime <input type="checkbox"/> Ići u Japan <input type="checkbox"/> Pričati s Japancima <input type="checkbox"/> Raditi kao vodič <input type="checkbox"/> Raditi kao prevoditelj knjiga i sličnog <input type="checkbox"/> Raditi kao prevoditelj među ljudima <input type="checkbox"/> Učiti o japanskoj povjesti <input type="checkbox"/> Ostalo ()

Ostale napomene, želje i dojmovi

--

ご協力ありがとうございました。Hvala na pomoći i suradnji!

